

# アワキオビアザミウマの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

## 第1章 ステージ1：アワキオビアザミウマに関する有害動植物リスク分析の開始

### 1 - 1 開始：(開始するに至った問題の本質、目的)

アワキオビアザミウマは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、アワキオビアザミウマの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

### 1 - 2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

### 1 - 3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

#### 1 - 3 - 1 経路

アワキオビアザミウマが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

#### 1 - 3 - 2 潜在的検疫有害動植物

アワキオビアザミウマ（学名：*Anaphothrips sudanensis* Trybom）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

### 1 - 4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

### 1 - 5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

## 第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

### 2 - 1 植物検疫上の取り扱いに影響するアワキオビアザミウマの特性等

#### 2 - 1 - 1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

#### 2 - 1 - 2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

#### 2 - 1 - 3 日本での分布状況及び公的防除の有無

アワキオビアザミウマは、本州、九州及び沖縄に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

### 2 - 1 の結論

アワキオビアザミウマは、本州、九州及び沖縄に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名:	アワキオビアザミウマ <sup>4)</sup>
学名:	<i>Anaphothrips sudanensis</i> Trybom <sup>1), 3), 4)</sup>
英名:	
分類:	アザミウマ目 (Thysanoptera) <sup>1), 3)</sup> アザミウマ科 (Thripidae) <sup>1), 3), 4)</sup>

分布: (日本) 本州、九州、沖縄<sup>3), 4)</sup>  
(世界) インド、インドネシア、イラク、スリランカ、タイ、台湾、中国、フィリピン、ウズベキスタン、キプロス、エジプト、スーダン、セネガル、ソマリア、ナイジェリア、南アフリカ、モザンビーク、モロッコ、キューバ、グアテマラ、コスタリカ、ジャマイカ、バルバドス、プエルトリコ、メキシコ、オーストラリア、ニューカレドニア<sup>1), 3), 4), 6), 7)</sup>

寄主植物: サトウキビ、ススキ、トウモロコシ、ネギ<sup>1), 3), 5), 6)</sup>

形態・生態: 体長1.3～1.5 mm。頭部から尾管にかけて暗褐色～黄色～暗褐色となるが、色々なパターンがあり、日本で発生している個体では、7種類のパターンがある。<sup>3), 8)</sup>

被害: トウモロコシの葉を退色させ、サトウキビでは若い葉が巻いたままとなり、古い葉では銀白色の斑点ができる。<sup>5)</sup>

ベクター

・ 系統: 植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。<sup>1), 2)</sup>

防除法: 花き類・観葉植物、野菜類等においてアザミウマ類に対する登録農薬がある。<sup>9)</sup>

文献: 1) CAB International (2011) Crop Protection Compendium. CABI (<http://www.cabi.org/cpc/>)  
2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011/10). Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)  
3) Kudo, I. (1989) The Japanese species of *Anaphothrips* and *Apterothrips* (Thysanoptera: Thripidae). *Japanese Journal of Entomology*, 57:477-495.  
4) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 (<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)  
5) Lewis, T. ed. (1997) Thrips as crop pest. CAB International. Wallingford. UK: 740pp.  
6) 榎本雅身ら (2005) 輸入植物から発見されたアザミウマ類[追補IV]. 植物防疫所調査研究報告 41: 75-78.  
7) Mound, L. A. and R. Marullo (1996) The thrips of Central and South America : an introduction (Insecta: Thysanoptera). Associated Publishers. Florida. USA: 487pp.  
8) Mound, L. A. and M. Masumoto (2009) Australian Thripinae of the *Anaphothrips* genus-group (Thysanoptera), with three new genera and thirty-three new species. *Zootaxa* 2042:1-76.  
9) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター (2011) 農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/>)